

令和2年度3学期始業式 式辞

令和3年1月8日

皆さん、おはようございます。

昨晚、首都圏を対象に再び緊急事態が宣言されました。ここ関西も他人事ではない状況です。コロナにうつらない、コロナをうつさない、改めて全員で強い意志を持って、具体的な行動に移しましょう。

さて、令和3年、新しい年を迎えるに当たって、俳人高浜虚子の詠んだ有名な俳句を一つ紹介します。

去年今年貫く棒のごときもの

教科書にもよく掲載されています。この俳句には、二つの要素がありますね。一つは、「去年から今年へ年は変わった」ということ。もう一つは、「棒のような何物かがずしりと貫いている」ということです。この「棒」は何を意味しているか。ある人は「棒」を「時間」だと言います。ある人は「日常」、ある人は「宇宙の真理」、ある人は「作者自身の信念」だと言っています。僕なりの解釈を言いますと、「去年から今年へ年は変わった。大きな節目だ。しかし、節目にあっても、まぎれもなく時はつながっており、私の、変哲もない、けれども折れることのない生きざまは変わらずに貫かれる。」こんな感じが、いかがでしょうか。

そこで、皆さん、新年を迎えて、今日、ぜひ次の二つのことを考えてください。

一つは、節目に当たって、今年は昨年と何を変えるか？

もう一つは、何を棒のように貫き通すか？

神戸高校も、新しい時代にも確固たる地位を占める学校であるべく、棒のようなずしりとした神戸高校らしさを実直に貫きながら、必要な変革を図っていきたいと思います。

ところで、12月の終業式では、来たるべき新年が、皆さん一人ひとりにとって「花」のいっぱい咲く年になることを願うと話しました。

よく言われることですが、春に花を咲かせるためには、冬の厳しい寒さが必要です。寒さにあてることによって休眠打破が起こり、花芽が目覚めます。桜だって、チューリップだって、イチゴだってそうです。

コロナ禍のこの冬、そしてこれから最も寒さが厳しいときを迎えますが、春に美しい花を咲かせるための大切な試練のときだと考えましょう。この試練としっかりと前向きに対峙して、春、一人ひとりの花を満開にしましょう。